

「震災の教訓から学んだ 地域防災の重要性と 多様な視点の避難所運営」

R6.2.03

仙台市地域防災リーダー（SBL）
福住町町内会 防災・減災部長
大内幸子

今日のお話し

- * 私の住んでいる福住町の防災・減災の取り組み
- * 東日本大震災を忘れない！
- * 災害時の自助・共助の重要性について
- * 震災の教訓からの取り組み
- * 多様性のある避難所運営について
- * 自然災害に備えて



私の住む福住町の概要とハザードマップ



仙台市の北東部に位置し、七北田川と梅田川に挟まれた新興住宅地。
仙台市立高砂小学校区の中の1町内会。過去に台風や豪雨の水害被害を
たびたび受けている。人口約1500人。(町内会加入世帯427)
東日本大震災時は七北田川を遡上した津波が町の近くまで瓦礫とともに遡上。
2003年に自主防災組織が出来る

台風による豪雨災害 s61.8.5

台風10号による被害状況

8月4日から5日にかけて降水量 402mm

仙台市・死者5名 床上・床下浸水 32.975戸

梅田川

福住町

仙台市東部地域冠水状況 昭和61年 8月5日




福住町全戸が床上・床下浸水の被害を受ける

仙石線も水没

福住町

水深3メートル

S61.8.5



多くの車が水没 2階へ取り残された住民
住民は高砂小学校へ避難したが、体育館も浸水、
校舎の1階も浸水
まだ自主防災組織はなく、避難所運営もない。

数々の災害から 自分たちの町は自分たちで守る

出来るだけ行政に頼らない地域力！ 町内あげての災害対策

- 要支援者の名簿作成・住民全員の名簿作成（2003年）
- 高齢者宅の家具の転倒防止金具の取付
- 危険個所のマップの作成・見守り
- 備蓄倉庫の管理（防災用品・防災食）
- 災害支援ボランティア活動（中越地震支援活動）
- 仙台市内外の町内会・市民グループとの
「災害時相互協力協定」締結

※お互い出来る範囲内での支援と交流（14団体と締結）

福住町方式

※多くの水害と地震に見舞われてきたこの経験が、「福住町方式」を生み出す大きな原動力となる。現在も試行錯誤。



地図入りの名簿作成
1年ごとに更新

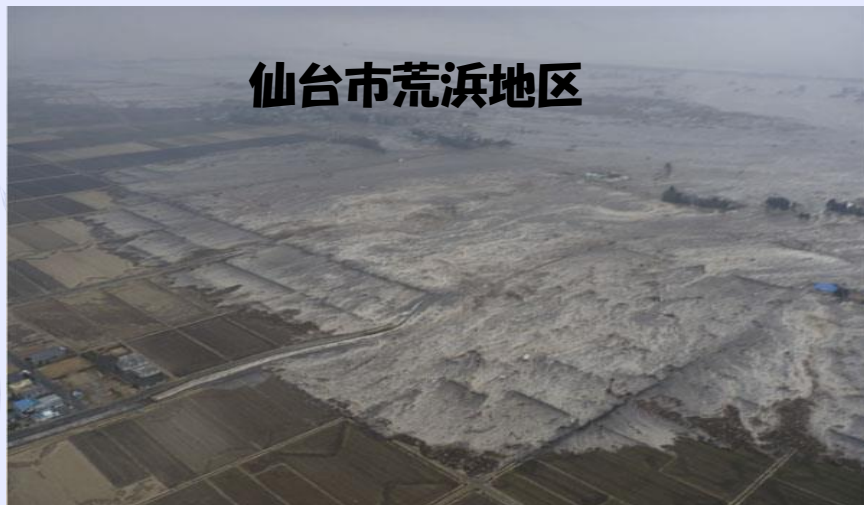


東日本大震災

2011.3.11

死者
行方不明者 22,215人

仙台市荒浜地区



宮城県仙台市荒浜地区における津波の状況（平成23年3月11日16時05分撮影）
（仙台市消防局提供）

仙台市蒲生地区



七北田川の遡上



3.11の1日の動き

2時46分発災



普段の訓練通りに動けた！

- 安否確認 町内要支援者の安否確認（避難行動要支援者）
- 住民の避難誘導・呼びかけ
- 高砂小学校へ子供達の安全の確認
- 災害緊急対策本部の立ち上げ
- 町内の被害状況の確認
- 避難所の開設
- 炊き出しの準備
- 公園に手作りトイレと災害時瓦礫置場の設置

中学生も水くみや
子供たちの面倒を
見てくれた



手作りトイレ

3.11 避難所の当日の様子

電気・ガス・水道
ライフラインは停止
雪がちらつく、とても寒
い日だった。



大内



高砂小学校夕方6時半

- ・500人の収容・備蓄品の避難所に2000人近い避難者。
(帰宅困難者含む)
- ・仮設トイレは外にあり和式
(一部の高齢者は困難を抱える)
- ・赤ちゃんを抱えたお母さん、ミルクはあるがお湯がない。

福住集会所夕方6時

全国から支援物資が続々と届く。あいがたかった
嬉しかった。



小学校の卒業式

2011.3.18

小学校、避難所の人たち、地域の役員さん達での手作りの卒業式



震災で思ったこと！

**災害の規模が大きければ大きいほど公助には限界！
自助・共助の取り組みが重要。**

日常の取り組みと訓練が災害時に力を発揮！

災害時には女性の視点に立った防災・減災が必要

◎子供たち・高齢者など災害弱者への気配りと支援

◎避難所は実生活そのもの、災害時の対応能力を持つ

東日本大震災後 自分の気持ちが大きく変わる！

過去の災害の事を伝える事は人の命を守ることに繋がる！

災害時に専門的な知識がないと行動できない！

(福祉・救護・防災・減災、その他沢山学びたいと思った)

仙台市地域防災リーダー(SBL)認定

女性のための防災リーダー養成講座受講

(せんだい女性防災リーダーネットワークの立ち上げ)

総務省東京消防庁『防災意識向上プロジェクト』語り部として

東日本大震災の教訓と人の命の大切さ、備えなどを全国に発信！

沢山学んだ知識を地域で発揮したい！

国連防災世界会議

2015.3.17

「地域防災の取り組みと活動」

災害時には女性のリーダーが必要！
パブリックセッションにてSBLとして発表

**発表の場がある！
私にとってチャンスだった！**

仙台防災枠組

女性や若者のリーダーシップの位置づけ
より良い復興・防災の主流化
**マルチステークホルダーが防災に取り組む重要性
一人一人が出来る事から。。**

**沢山学んだ知識を
仙台から発信する！**

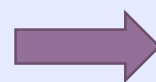
14



震災後の取り組み

仙台市地域防災リーダー(SBL)の養成

東日本大震災後
自主防災組織の必要性と重要性
災害の規模が大きすぎて行政も被災



地域防災力の強化

発災時

住民の安否確認
情報収集・伝達
避難誘導
初期消火
救出救護
避難所の開設・運営

平常時

地域のマップ作り
自主防災計画(アクションカード)
指定避難所運営の協議・学校との連携
地域住民に対する情報提供・啓発活動
地域防災リーダーどうしの情報交換

- ・仙台市がSBLを活動しやすいように支援
→バックアップ講習会・名簿を学校と町内会長に提示
- ・仙台市独自の講習カリキュラム
→地域防災力診断、DIG・5年以上活動できること。
- ・令和4年度6月末現在 848名(うち女性212名)

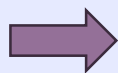
地域に根差した防災活動



せんだい女性防災リーダーネットワーク

「女性のための防災リーダー養成講座」終了時に修了生が立ち上げ、
(青葉区・宮城野区・太白区・泉区・若林区)5区で各区での活動
町内会役員・学校支援関係者・民生委員・防災士・市職員・SBLのメンバーからなる。
現在72名 月1度各区定例会・月1度の各区代表者会議

仲間とつながることが出来、
活動の範囲が広がる



地域に生かせる

多様な視点での
防災に取り組む

『仙台市防災功労表彰受賞 R4.1.17』（事務局は5区の代表者で運営）

イベントや研修会等いろいろな切り口から楽しく防災を学ぶワークショップ等を開催
女性ならではの視点とリーダーシップを活かしながら地域防災力を高める
さまざまな活動で、地域に貢献したいとの思い！
老若男女や多様な人たちとの交流を図り、地域に根差した活動を平成26年から始める

ママのための防災講座



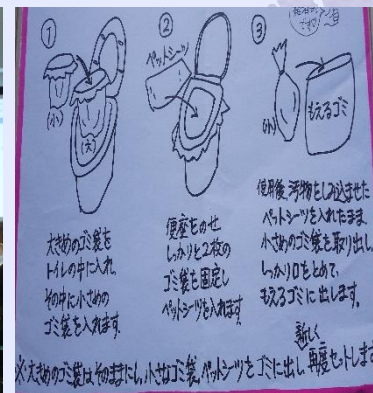
防災講座「避難所ってどんなところ？」



多文化共生ワークショップ



携帯トイレ作成講座



震災後の取り組み



- ①静岡県(129基) ②高知県(110基)
③宮城県(32基) 2018年現在

数日間滞在出来るように外壁で囲った屋内スペースがある。車いすでも上がれるようにスロープになっている。(水、食料、毛布、発電機)



災害時給水栓

- ・道路に埋設している水道管の空気弁を災害時に応急給水所として、利用できるように改良。
- ・学校の備蓄倉庫に、吸水ホースと仮設吸水蛇口と開閉ハンドルが入っている。



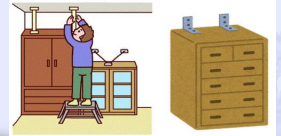
ボランティア活動や夏祭り、 イベントなどで住民の コミュニケーションの構築

夏祭り



小学校見守りボランティア

高齢者宅の転倒防止金具の取付



敬老会

青パトロール



福住町防火・防災訓練

訓練の目標

☞「自分たちの町は自分たちで守る」をモットーに毎年訓練
16年前から消防署の指導ではなく、福住町独自に企画と運営
減災に力を入れている「全員参加型」を目指す防災訓練

発災後の対応

- ・要支援者の安否確認
- ・消火活動
- ・瓦礫・車両からの救出搬送訓練
- ・炊き出し訓練

減災コーナー

- ・ガス局・水道局・NTT・社協
- ・環境事務所・栄養士会
- ・住宅の耐震補強・防災用品
- ・災害時協力協定団体と交流

地域みんなで防災訓練に参加しましょう！



白い旗を玄関に掲げ、訓練に参加



被害状況の確認



段ボールベッドや 土のうづくり

救助犬で捜索



ドローン



福住クリニックの先生からトリアージ
震災前から福住町防災訓練に参加

中学生との打ち合わせ



婦人部と一緒に安否確認



災害時協力協定・支援物資搬送



タンカで搬送訓練



トイレ・カー



高齢者疑似体験



小学生も親子で消火!



サバ飯づくり・子供会



JAFも毎年参加



バケツリレー復活



水道局



小学生・大声コンテスト 「火事だー！」



防災・減災に必要な地域のつながりの基盤は夏祭り！



子供みこし・お父さんみこし
町を練り歩く



5か所の休憩所には
地域の人達から差し入れが

若者の参加

子供会役員、中学校役員、婦人防火
クラブ、お父さん達をそのまま防災訓練
にスライドして役員として参加





中学校防災講演



小学校引き渡し訓練



5年生サバ飯講座



教職員防災講座と簡易トイレの組み立て



4年生・東日本大震災²⁵命の大切さ

防災まち歩き(福住町の災害履歴とマップ作り)



東北大・北海道大の先生も参加



地域保育園の防災訓練

東日本豪雨

台風19号

2019.10.12

(151世帯が床上・床下浸水)

暗くなる前の早めの避難を呼びかけ！



梅田川と福住町



SBL大内



暗くなる前の避難者(200名のうちの70名が早めに避難) 27

避難所を運営している人たち

避難所運営委員会（学校・行政・地域・SBL）



備蓄倉庫の点検（女性の参画）
避難所運営マニュアルの見直し検討
全員で実地訓練



新型コロナウイルス感染症対策備蓄品の追加（フラダンテーションづくり・アイソレーションガウン・非接触型体温計・フェイスシールド）・女性用品の点検

災害発生



自分・家族の安全確保

自助

津波など、緊急に避難を必要とする場合

災害時に自宅や地域にいる場合で津波などによる緊急の避難を要しない

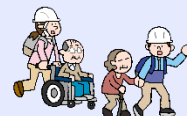


地域での助け合い

共助

隣・近所には
声がけ・安否
確認

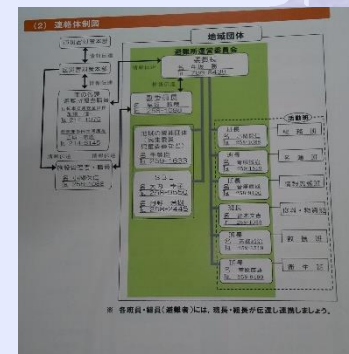
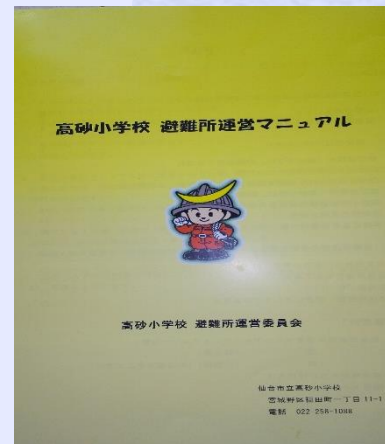
災害時要援護者・
ひとりで避難出来
ない人には
安否確認・避難の
支援



一時避難所(近隣の公園など)へ
町内の安否確認
町内の被害確認
消火・救助活動
応急手当

『自宅での生活が困難』『避難指示が継続』
『自宅の安全確認OK』『避難指示が解除』

避難所へ
自宅へ



震災後、避難所運営マニュアルの変化

- ・避難所運営企画委員として女性の参画
- ・それぞれの地域にあった運営マニュアル作成

避難所の環境整備(東日本大震災後)

- ・受付は避難者名簿の徹底(コロナ対策だけでなく、不審者が入り込まないように)
- ・世帯ごとのパーテーションを設ける。
- ・簡易トイレは7:3の割合で洋式が増えた。
- ・警察が避難所の見回りに来ている
- ・更衣室・授乳室は中から鍵のかかる部屋。
- ・運営体制→女性の参画、声を反映出来るように。
- ・女性用のデリケートな支援物資の配布場所。
- ・ペット同伴避難(部屋を設ける)
- ・食事作り、片付けなどが性別に偏らないように。
- ・避難所の巡回は、市職員・地域役員・学校の先生・SBL(男女)

多様性のある
防災体制に
女性の声を!

◎福祉避難所について
(周産期福祉避難所)

災害が起きたら



災害が起きたら→自分の身を守り逃げ道の確保
(玄関・窓を開ける)
慌てて飛び出さない。ラジオ・テレビで情報をとる

- ①自分の地域の避難する避難所を知っていますか？
- ②ブレーカーのメインスイッチをおとしてから避難所へ！

在宅避難

自宅に倒壊や損壊の危険性がない場合に、指定避難所に避難するのではなく、自宅で避難生活を送る方法



分散避難

あらかじめ、親戚や友人宅、知人宅などに、お願いしておき避難をする方法



③災害が起きた時、困らないように食料や防災グッズを用意してますか？

- ・カセットコンロ
- ・ガソリンは満タンに
- ・非常持ち出し袋
- ・ペット用品
- ・**携帯トイレの用意**



NHK



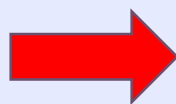
※どの様に選択しても備えや準備が必要 (知識も)

もう一度みんなで考えてみましょう！



- 出来るだけ行政に頼らない地域力。
- 自分の住んでいる地域を知る
- 備えや準備・取り組みをしている事は災害時のリスク削減に繋がる。
- お祭いやイベントを通じ、顔の見える関係が減災に！
- 防災は日常生活そのもの。様々なイベントや活動があって防災の取組が活性化する。 → **災害リスク軽減**

- 備える
- 知識を得る
- 訓練をする




命が助かる事
命を助ける事

忘れない事

世界で起きている自然災害の約1割が 日本で起きている！リスクは日本全国にある

いつでも どこでも災害はやってきます！



普段から災害が起きた時のとるべき行動を家族と話し合っておきましょう。

持続可能な防災・減災の取り組みを、継続する事で、いつか役に立つ時が来ます。

活動が続ける中で心が折れる時がありますが、
あきらめないで！

災害時は
子供から元気な
高齢者までみんな
で助け合い、乗り
越えましょう！

一人一人が
身近なところから
出来ることから始めましょう！

ご清聴ありがとうございました